

2013年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度を見ると、極うずは平年より強かった。日本付近から北米にかけては正偏差と負偏差が交互に並ぶ波列パターンが卓越し、中国北東部から日本の東にかけてはトラフ（負偏差）、北米西部ではリッジ（正偏差）となった。太平洋高気圧は本州の南海上で平年より勢力が強く、東シナ海や西日本へ張り出した。亜熱帯ジェット気流は、ユーラシア大陸の東部で平年の位置から北偏し、日本の東海上では南偏した。

熱帯の対流活動は、南シナ海からインドネシア付近、太平洋の中・東部で平年より活発、西部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は下旬には太平洋東部から南米付近に位置した。対流圏下層の赤道域では、インド洋と太平洋中・東部で西風偏差、インドネシア付近から太平洋西部で東風偏差だった。対流圏上層ではチベット高気圧が平年より強く、中国中部から西日本への張り出しが明瞭だった。南方振動指数は+0.3だった。

世界の天候

2013年8月の世界の月平均気温偏差は+0.22°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、4番目に高い値となった。8月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.63°C/100年（速報値）である。

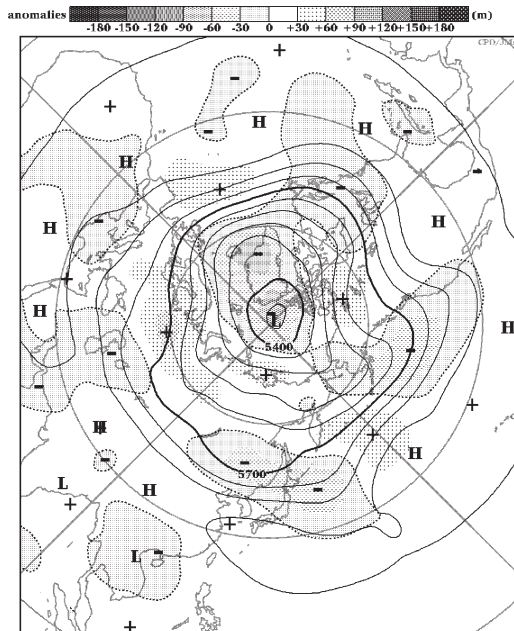
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東日本～中国中部で異常高温となった。
- 中国北東部～カザフスタン東部で異常多雨となった。
- ポリビア～パラグアイで異常低温となった。

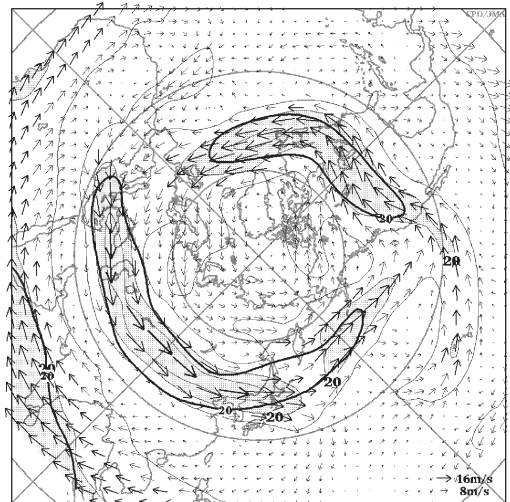
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

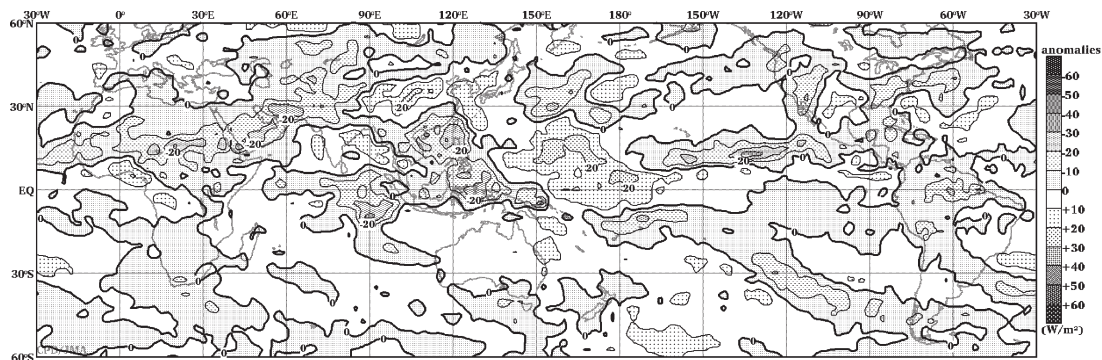
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



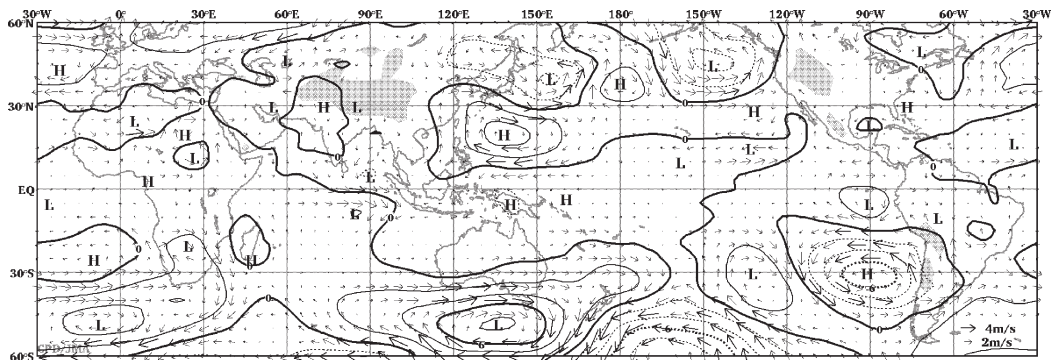
2013年8月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。



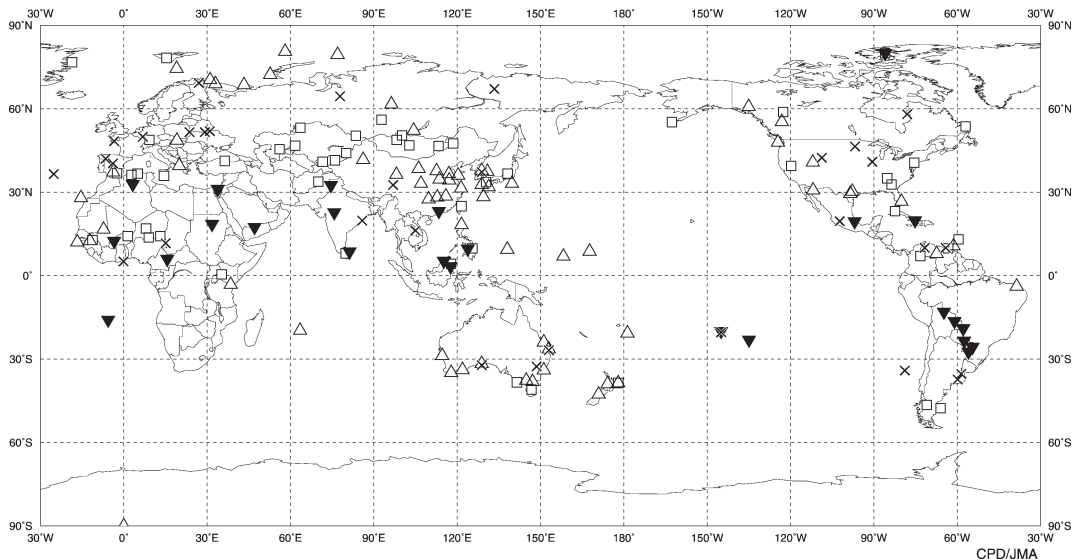
2013年8月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s。陰影部は20 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2013年8月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年8月の月平均850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。